

野村波留子原案・小川政弘脚色 **命をありがとう**

配役

大橋 弓子 (31 歳)	大橋めぐみ	野村婦長	大橋めぐみ
夫 ^{ただし} 正 (35 歳)	畠山 裕樹	医師／啓介の上司 (共に 50 歳)	宮本正勝
娘 真弓／弓子 (共に 3 歳)	(大橋・村田)	守護天使	小川政弘
弓子の父 啓介 (60 歳)	小川政弘	聖書の言葉タイトル／場	村田 泉
弓子の母 静子 (55 歳)	村田 泉		

神のなさる事は すべて時にかなって美しい。
神はまた人の心に永遠を与えられた。
しかし人は 神が行うみわざの
始まりから終わりまでを見極める事が出来ない。
(伝道者の書 3 章 11 節)

タイトル

野村波留子作「命をありがとう」

●第 1 場 大橋家

(効果音) ピンポーン(チャイム)
弓子 はーい！
(効果音) (玄関へ ドア開く)
母 静子 ごめんね、遅くなっちゃって！
父 啓介 いやはや、高速道路が渋滞でさー。弓子！ 元気そうじゃないか。
弓子 お父さん、お母さん、ありがとう。お医者さんから「大事をとって早めの入院を
しましょう」って連絡があったもんだから 急がせて、ごめんなさい。
母 大丈夫、あなたのお産の手伝い予定がちょっと早くなっただけなもの。
父 なーに、2 人目のお産は楽だって皆言ってるよ。お父さん、ちっとも心配なん
かしてないぞ。ほらほら、弓子の大好きな裏山のミカン。沢山持ってきたから
な。
弓子 ありがとう！
母 あとのことは^{じじばば}爺婆に任せて。安心して行ってらっしゃい。
父 私は真弓ちゃんの保育園送迎係だ。あの子も 3 歳でお姉ちゃんか。寂しがら
んようにうんとかわいがってやろうな。

弓子 父さん、目の中に入れて真弓を甘やかさないでよ。
母 あら、釘刺されちゃったわね。お父さん。
(3 人和やかに笑う)
母 入院グッズはこれだけ？ 忘れ物ない？
弓子 はい。前から準備してあるから大丈夫。
父 ミカン入れたか？ 何か必要な物があれば、あとで届けるからな。

(効果音) ピンポーン(チャイム)
弓子 あ、たぶん正だわ。「今日は早く帰って」って電話したの。悪い悪い。
(効果音) (玄関ドア開く)
正 どうもどうも、お父さん、お母さん。急なお願いですみません。本当に助かります。これから、保育園で真弓を拾って病院へ行って、3 人で“最後の晚餐”をして来ます。
弓子 最後の？ ヤダー。
正 だって、今度は 4 人になるんだぜ。だから 3 人の食事は最後だよ。忙しくなるぞ。「ゆっくり座って食事なんかできない」って先輩が言ってたよ。
弓子 今夜は病院の最上階レストランで親子水入らずのディナーね。
正 ワインなんてダメだぞ。
弓子 そんなもの置いてないって。A 定食とか B 定食とかよ。
母 ほら、保育園で真弓ちゃんが待ってるわよ。
父 あとのことは爺婆にお任せあれ。
正 じゃ、あとはお願ひします。
弓子 行って来まーす。
母 行ってらっしゃい。
(効果音) (扉閉まる)
父 おい、心臓が弱いのに 2 人目って、弓子は本当に大丈夫なのか？
母 大丈夫よ。あの子、頑張り屋だから。

●第 2 場 翌朝、大橋家

(効果音) (小鳥のさえずり)
母 お父さん、真弓ちゃん！ ご飯ですよー。
真弓 はい。(SE 二階から降りてくる。)バアバ、真弓、自分で着替えてパジャマも畳めたよ。ジイジもね、真弓が起こしてあげたんだよ。
母 まあ！ もうすっかりお姉さんね。
父 いやはや、真弓ちゃんはしっかりしてるよなー。起こされちゃったよ。ジイジはびっくりだ。

母 さ、朝ご飯をしっかり食べて保育園に行きましょうね。
父 母さん、新聞！
真弓 ジイジ、自分でできることは自分でするでしょ。
父 ん、あ、そうか。そうだよなー。自分でできることは自分でと。
母、真弓 (クスクス笑う)
(効果音) (携帯電話着信音)
正 はい、大橋ですが。
婦長 (フィルター音)大橋弓子さんのご家族でしょうか？
正 はい、そうですが。
婦長 (フィルター音)さくら病院、産科婦長の野村です。落ち着いて聞いてください。
先程、弓子さんの容態に変化がありまして すぐに病院へいらしてください。
正 え？…あの、弓子は？
婦長 (フィルター音)ご到着次第、担当医から説明があります。では後ほど。

●第3場 病院

正 お父さん、お母さん、真弓。こっち、こっち！
真弓 あ！ パパだ！
正 どうも。僕もさっき病院に着いたんです。婦長さんが「産科病棟のカウンセリンググループに来てください」って、担当医から説明があるそうで。
父 弓子は？
正 まだ会ってません。説明を聞いてからだそうです。
母 私とお父さんは真弓ちゃんを売店に連れて行ってるから。
正 ええ、お願いします。
(効果音) (婦長の近づく足音)
婦長 あ、大橋さんですね。婦長の野村です。お待ちしていました。こちらへどうぞ。
父 どうなんですか、弓子は？
婦長 担当医からお話します。
正 弓子の意識はあるんでしょうか。僕と話せますか？
婦長 ここです。カウンセリングルーム2番へお入りください。どうぞ。
正 あの…。
婦長 先生。こちらが大橋弓子さんのご主人です。
医師 分かった。(正に)ご主人、あの実は、今朝から出血がひどくて、輸血もして最善を尽くしていますが、心臓がだいぶ弱ってまして～。(フェイドアウト)

●第4場 不思議な世界

音楽 (ファンタジックなブリッジ)

君ね。こうしょっちゅう休まれたんじゃ仕事にならないよ。君は優秀な人材だし、人柄も良い。しかし、これ以上君をかばうことは無理なんだ。こんなことは私だって言いたくないんだが。

啓介 すみません、部長。長い間良くしていただいたのに、ご迷惑をお掛けしてすみませんでした。

(啓介の自宅)

啓介 静子、僕、仕事を変えるよ。このままでは無理だ。会社には迷惑かけてばかりだし、弓子と過ごす時間もわずかだ。考えたけど、これからは実家の農園の仕事をさせてもらうよ。子どもの時から親父の手伝いをしてきたからできるはずだ。

静子 あなた、本気？「僕は長男だけど農園なんか継がない」ってサラリーマンになったのに…。でもそれ聞いたらお父さんもきっと喜んでくださるわ。もちろん、弓子もね。

啓介 これから弓子と過ごす時間が増える、でも収入は減るぞ。

静子 弓子の治療費、入院費分は確保しなきゃね。でも農園の新鮮な作物を食べられるし、食費も助かるわ。

音楽 (回想終わりのブリッジ)

弓子 お父さん、私のために一流企業を辞めたのね。そんなこと、父も母も、誰も教えてくれなかったわ。でもそのおかげで、私、手術ができて、すっかり良くなったのね。

守護天使 そうです。それで、あなたの魂も、地上に戻ったのです。

弓子 そうなんだ…。でもここに来ると、私の全ての記憶が残っている。私の知らなかったことまで、見られるのね？

守護天使 そうです。もっと見たいですか？

弓子 ええ、ぜひ！

守護天使 では、この際、あなたが 2 人の子どもの母になるために、なくてはならなかった、正さんとの出来事を振り返ってみますか。ではまず、10 年前、あなたがふしだらな男性と恋に落ちた時を…。

【回想】

音楽 (不安そうなブリッジ)

弓子(21 歳) お父さん。私たち、結婚という約束事に捉われないで、愛し合って、信じ合って、一緒に暮らすの。そのどこがいけないの？

父 啓介(50 歳) 親に挨拶にも来ない男に大事な娘を取られてたまるもんか！

弓子 これは私たち 2 人の問題よ。もう、私は21歳。自分のことは自分で決める。見
 合ひ結婚で、恋愛したことないお父さん、お母さんには分からないのよ。許し
 てくれないのなら、出ていきます。

母 静子(45 歳) 弓子！ 待ちなさい！

父 弓子！ 頭を冷やせ！

音楽 (回想終わりのブリッジ)

弓子 そうだったわ…。あのまま彼の家飛び込んだ時はショックだった。厳しい現
 実を見せつけられたから。彼にはもう奥さんと、子どももいたのよ。

守護天使 ご両親はあなたを探し回ってやっと見つけると、何も言わずに連れて帰った。

弓子 私、すごく落ち込んで、もうこの世に存在したくないと、ずっと思ってた。なの
 にそんな状態から踏み出せなくて うじうじしている自分が嫌でたまらなかつ
 た。

守護天使 あなたもつらかったね。それを見守るご両親もつらかった。

弓子 そうなの？ 私が帰ったというだけで安心して、何にもなかったみたいに陽気
 に振る舞う両親がうとましいと思ってたわ。

守護天使 それは違う。あなたが寝静まってから、ふびんなあなたのことを思って泣き崩
 れるお母さんを、お父さんも涙を浮かべながら慰め、励ましていたんですよ。

弓子 知らなかった…。

守護天使 次は 5 年前…。正さんのあなたへの思いをあなたが初めて知った夜のことを
 ――。仕事からの帰り道、あなたは、やがて夫となる彼とたまたま一緒になっ
 た。二人は幼なじみだった。

【回想】

正(30 歳) 今帰り？

弓子(26 歳) あら、正君。

(効果音) (並んで歩く男女二人の足音)

正(30 歳) 弓子はキャリアウーマンで結婚しないんだって、ほんと？v

弓子 そう、自分の意思でしないのよ、私。

正 君は子どもの頃はしょっちゅう病気で、青い顔して本ばかり読んでたけど、
 心臓の手術してからは随分変わったな。

弓子 ちよっと、並んで歩かないでよ。ただの幼馴染みなのに恋人と誤解されちゃう
 じゃないの。

正 誤解結構！ 元気そうになったから誤解ついでに結婚しない？

弓子 え！ な、なによ突然。

正 突然じゃないさ。僕は子どもの時からずっと「弓子と結婚する」と決めてたん

だ。

弓子 そんなこと、一度だって言ったことなかったじゃない。からかったら承知しないわよ。

正 君の両親は「いい」って言ったんだよ。ずっと前にね。

弓子 なによそれ。本人より親が先？ ありえない。

正 不倫男にだまされて弓子が出た時、僕、探すの手伝ったんだ。君のお父さん、気が動転してたから、親父が僕に車運転させて、あとを追いかけて。で、フラフラ歩いている君を見つけたんだ。

弓子 知ってたのね、あの時のこと。

正 まあね。「相手の男を殴り倒す」って言ったら、おじさんとおばさんに「もういいから帰ってくれ」って。追い返された。

弓子 見られたんだ、私の惨めな姿を。

正 で、今言わなきゃって覚悟を決めて、おじさんとおばさんに、「弓子を…弓子さんを僕が幸せにします」って言ったら、驚いたことに「あの子の心が落ち着くまで待つてやってくれるなら」って頭を下げられた。ご両親も、ひそかにそう思ってたんだね。あれから何年待ったかなあ。そろそろいいかなと思ってさ。

弓子 そう…そうだったのね。あれから、…もう5年よ。随分待つてたのね。

正 いや、僕が7つの時からだから、もう23年だ。長かったなあ。でもさ、僕が幸せにするから、もういいよね。

弓子 いつも、フツーにそばにいた正から、そんな言葉を聞くんてね。気がつかなかった。

正 これからもずっと、フツーにそばにいるよ。いいね。

弓子 …うん。とても白馬の王子様には見えないけれど…。いいか、この際。

正 やったー！（飛び上がって喜び、スキップする。）

弓子 やめてよ、子どもみたいに。

音楽 (回想終わりのブリッジ)

守護天使 あの時、口ではそう言いながら、あなたは目に涙を浮かべていた。正のいちぢな真心が、心に響いたんだね。本当に、思ってくれる人には、近すぎてなかなか気づけないものです。ほどなく二人は結婚して、あなたは妊娠した。だが、ひどい妊娠中毒症になって、あの時も死にかけてた。

弓子 じゃ、私の魂は、ここに移されてたのね。あの時も、うちの両親、大騒ぎしちゃって、みっともないっつらなかつたわ。

【回想】

父(55歳) 子どもなんて無理だよ。あんなに吐いてつらそうで、万が一のことがあったら

母(50歳) どうする。医者だって「リスクはある」とはっきり言ってるんだ。
それでも、弓子は産みたいのよ。女なら当然の気持ちよ。お医者様と相談しながら見守ってあげましょうよ。ね？

守護天使 あなたはほとんど寝たきりで、ご両親が必死で支えた。
弓子 つらくて、苦しくて周りのことまでは分からなかった。お医者さんと、こんな話もしたわ——。

【回想】(続き)

医者 点滴ではなくて食べ物から栄養を摂るのが一番なんですがね。

弓子 食べるとすぐ気持ち悪くなる！ 何も食べられないんです。先生。

医者 おなかの赤ちゃんのために食べるんですよ。お母さん。

弓子 「お母さん」！ 先生がそう呼んだので気が付いたの。私、自分 1 人じゃない。
おなかの子のために食べなきゃって思って、戻しながら食べました。

守護天使 よく頑張ったね。そして真弓ちゃんが生まれた。

弓子 はい、我ながら。「心臓疾患があるのに、よくここまで」って、皆さんにも褒められたわ。

守護天使 さて、この 2 人目の命は、あなたの頑張りだけで世の中に出られるのかな？

弓子 ええ。真弓の時と同じに また、頑張るわ。

守護天使 ここから分娩室の様子が見えるでしょう。廊下でご両親と正さんと真弓ちゃん
が一生懸命に祈っています。見えますか？ お医者さんと婦長さんや看護師
さんたちが、あなたと赤ちゃんを生かそうと奮闘しているのも見えますか？

弓子 ええ。みんな真剣に、キビキビと。あんなに沢山の方たちが走り回ってくださ
ってる。家族が一生懸命に祈っている。私とこの子の命のために…。これも地
上では意識を失ってて、全く知らなかったわ。

守護天使 あなただけじゃない。人はみんな、生きている間はそのことに気がつかないの
です。当たり前だと思ってね。ご両親は、小さい頃は教会学校に通っていた。
それが、あなたや赤ちゃんの命が危ないと知って、この間、正さんや真弓ち
ゃんも誘って何十年ぶりがで教会に行ったのですよ。そして牧師さんに祈っ
てもらい、それ以来、あのよう、昼も夜もお祈りしているのです。

弓子 そうなんだ…。お願いします。私と赤ちゃんを戻してください。もしどちらかしか
生きられないというなら、どうぞこの子を！

守護天使 ——分かりました。イエス様、神様に全権を任されていますから、あなたを地上
に戻します。でも地上での現実の生活の中で、あなたに本当に語りかけてく
ださるのは、神様です。どんなときも、そのお方に、お聞きなさい。そして、何

でも神様に話すんです。お祈りでね。
弓子 神様と、お祈りで、ですか。……分かりました。
守護天使 では、お戻りなさい、地上の世界へ。感謝を忘れずにね。

●第5場 再び病院

音楽 (ブリッジ)
(効果音) (産声)
婦長 大橋さん！ おめでとうございます。男の子です。「小さく生まれて大きく育て」。坊やは保育器に入りますが、大丈夫ですよ。
正 お父さん、お母さん。真弓！ 弓子は、ママは、点滴と酸素マスクでほんとうによく頑張ったよ。今はまだもうろうとしています「ありがとう。ありがとう」ってずっとつぶやいています。
父 啓介 そうか。ともかくよかったよ。なあ母さん。
母 静子 ええ、ほんとうに。正さん、いよいよ二人のパパですね。頑張ってください！
正 はいお母さん。弓子がまた何かとお世話になると思いますが、どうぞよろしくお願いします。
母 はいはい。私たちも良い爺婆になるよう頑張らなくっちゃ。ねえお父さん？
父 ああ。それにしても、弓子は誰に「ありがとう」と言ってたんだ？
母 お医者様、婦長さん、看護師さんたち、そして、正さんにかしら。私たちも入ってたらうれしいんだけど。
正 もちろんですよ。でも一番の感謝は、死の淵からこの世に生まれてきてくれた小さな命に対してじゃないかな。
父 そうか…。きっとそうだな。
母 ええ。そしてその命をくださったお方に対してよね。ほんとうに、命をありがとうございます。…神様。

《完》